

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2018-11-15

APM news 202

秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館

ふなばしアンデルセン公園子ども美術館 4月18日(水)～7月22日(日)

JBD2017「赤い靴」受賞・入選作品特別展示

場所:ふなばしアンデルセン公園子ども美術館 2階展示室前通路/入館者数:11,087名



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



2018年4月18日(水)～7月22日(日)までの期間、千葉県船橋市にあるふなばしアンデルセン公園子ども美術館において、日本ブックデザイン賞(JBD)2017の「赤い靴」受賞・入選作品を展示した。日本ブックデザイン賞は、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)が主催する公募事業である。子ども美術館でのJBD作品の展示は昨年に引き続き2回目である。

ふなばしアンデルセン公園は、1987年にワンパク公園として開園、1989年に船橋市がデンマークのオーデンセ市と姉妹都市提携を結んだことから、同市出身の童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの名にちなんで「ふなばしアンデルセン公園」と改称した。APMの館長・秋山孝は、ワンパク公園が開園する準備段階から関わっており、現在もイベントポスターの作成を請け負うなど付き合いは続いている。その縁もあり、昨年よりふなばしアンデルセン公園子ども美術館の協力を得て、JBDの受賞・入選作品の中からアンデルセン作品を展示していただいている。昨年の展示作品は「マッチ売りの少女」であった。多くの人の目に留まり、装画・装丁の魅力、ブックジャケットの美を伝えることができたのではないだろうか。今年は「赤い靴」作品33点を展示した。昨年に引き続き、多くの人々にブックジャケットの魅力伝えてほしい。

また、昨年はJBD2017展において「第9回アンデルセン公園きりがみコンクール」の受賞作品をポスターにしたものを展示した。「アンデルセン公園きりがみコンクール」とは、アンデルセン童話の世界を切り紙で表現した作品を審査する、今年で10回目を迎えるコンクールである。こうした相互のやりとりによって、「アンデルセン公園きりがみコンクール」「日本ブックデザイン賞」双方の活動が盛り上がっていくことは喜ばしい。

日本ブックデザイン賞のブックジャケット部門の魅力のひとつは、与えられた課題に対し応募者が出した答えが見えることであると思う。「赤い靴」という課題に対し、応募者はその作品をどのように解釈し、読者に何を伝えたいと考えたかが作品に表れる。それが千差万別で非常に面白い。タイトル通りの赤い靴を描いた作品が多いが、踊る少女を描いた作品、靴を連想させるリボンを描いた作品など、様々な表現を見ることができる。秋山館長は以前、「ブックジャケットは本と読者を繋ぐ最初の扉である」と語っていた。読者の想像力をかき立て手にとらせる「最初の扉」を見ることのできる場所が、長岡だけでなく、船橋市にまで広がったことに感謝する。(森山奈帆・APM職員)